啓光だより

発行元
社会福祉法人啓光福祉会
東京都多摩市和田一七一七
042−375−7303

令和八年度の取組

啓光福祉会本部

令和八年度の事業計画では、啓光福祉会の経営理念に基づき、以下の重点施策を展開し利用者本位の支援を高めます。なお、詳細は、各事業所の取組をご覧ください。

○中長期計画の策定

各事業所の課題解決に向けて、法人の財務状況等も踏まえて、中長期計画を策定します。

○人材育成

職層に応じた研修計画や、職員の目標管理を徹底し業務を通じた人材育成を行います。

○施設の環境改善

利用者がより安心安全に活動できるように、職員の５Ｓ活動（整理・整頓・清掃・清潔等）に取り組みます。

（理事長　杉野　学）

啓光学園・なかまの樹

啓光学園では、六名の職員が入職し、令和八年度が始まりました。入職した職員は、元気一杯に利用者の方の支援に取り組んでいます。利用者の皆さんも、職員の異動にもすぐ慣れてくださり、健やかに生活されております。学園では感染症対策を強化し、今のところ、新型コロナウィルス感染はもとより、他の感染症も流行の兆しはありません。引続き感染症対策に万全を期してまいります。

また、「歳時記」と称して時季ごとに行事を実施しています。既に、端午の節句や七夕など、利用者の皆さんに楽しんでいただきました。さらに、猛暑対策で昨年度から九月開催に変更した「新堂公園祭り」の準備も着々と進んでいます。

なかまの樹では、一名の職員が入職し、新年度をスタートさせています。利用者の皆さんで作成したカレンダーをはじめ、多くの作品を手掛け、芸術活動を盛んに行っています。販売にも力を入れ、栽培したスプラウトや木工作品などを販売し、収入を得ています。利用者の皆さんの意思を尊重し、学園と連携して安全安心を第一に、様々な取り組みを進めています。

今年度より５Ｓ活動を展開し、環境改善に一層、取り組んでいます。清潔で整備された生活環境を維持し、安心安全な施設運営を行ってまいります。

（啓光学園施設長　藤野泰郎）



啓光学園・本部

啓光ホーム

令和三年の「くらさわ・かりん」の開所以来、防災対策を毎年見直し、有事に備えています。令和七年度には、インカムを導入し、地震発生時に各ユニットで連携し合うよう災害時のマニュアルを改定しました。また、非常用電源は令和六年度から三ヵ年計画で全ユニットに配備を計画しており、今年度が完了の年になります。

サービス面では、昨年度に利用者の皆様から「苦情・要望」の聞き取り調査を行いました。この調査で見えた課題は、外出の機会が散歩と買い物程度しか上がらなかったこと、一方、食べたいものでは、ラーメン、ハンバーグ、パスタ等が上がりました。このことから、例えば、調理時間を短縮できる人気メニューを取り入れることで、遠方への外出の付き添いができるのではないか等、休日の充実に向けて再検討することになりました。

今年度の事業計画の重点項目として、これまで試行錯誤を重ねてきた「新任職員への仕事の教え方マニュアル」が整ったことから、全てのユニットで展開していきます。

また、前年度に検討した「衣類の買い替え・入れ替え基準」と、「日々の清掃マニュアル」を実践に移し、環境整備に努めます。

これまでの実績を、更なるステップアップに繋げるために課題を見つけ、改善につなげる事業運営を心がけていきます。

（啓光ホーム施設長　森田淳嗣）



啓光ホーム（かりん）



啓光ホーム（くらさわ）

啓光えがお

令和七年度の啓光えがおは、三つの目標を掲げてスタートしました。一つは、西フロアに目的別の空間をつくり、利用者の皆さんの環境を大きく変えることで、支援の発展を図ることでした。九月の床改修工事に合わせて、東京都強度行動障害支援者養成研修を修了した職員によりプロジェクトチームが発足し何度も話し合いを重ね、現在のレイアウトになりました。

利用者の皆さんの戸惑いは比較的少なく、スムーズに受け入れて下さり、課題となっていたトラブルが減りました。

二つ目の目標は、啓光えがおの運営に利用者さんにもっと関わっていただくことでした。

イベント企画、赤い羽根共同募金、活動準備や片付けなど、これまで職員だけでやってきたことを利用者さんと一緒に行うことで、一層活気あるイベントや活動になりました。

三つ目は、働きやすい職場づくりでした。利用者さんにとって居心地の良い空間であることと、職員が気持ちに余裕を持って働くこととが両立して、はじめて継続した満足のいくサービスの提供が可能となります。

これらは令和八年度も継続するとともに、新たに法人の重点項目にも合致した「そうじ」活動を、毎週金曜日の午後、利用者さんと職員で始めました。

「わくわくえがお」の曲に合わせ、皆さん、明るい表情で取り組んでいます。九月には東側フロアの床修繕工事も予定しています。気持ちよく毎日を過ごせるよう工夫を続けていきます。

（啓光えがお施設長　安江みゆき）



啓光えがお
（多摩市総合福祉ｾﾝﾀｰ内）

各部署から

啓光学園児童

週一回行われている児童活動では、様々なプログラムを実施しており、児童の皆さんは、毎週笑顔で参加し、全力で楽しんでいる様子が見られています。

季節ごとのイベントプログラムも充実していて、クリスマス会では自分たちでデコレーションしたケーキを囲み、特別な時間を過ごしました。また、夕方から多摩センターのイルミネーションを見に出かけ、幻想的な光景に目を輝かせていました。

節分では、鬼に少し怖がりながらも元気よく豆をまいて鬼退治！最後は自分たちで豆を拾い、掃除まで行い、行事を締めくくりました。



人気のボッチャ大会も定期的に開催され、職員も一緒に真剣勝負！負けて悔しがり次の試合に再挑戦するのは児童だけではなく職員も同じ、会場は大いに盛り上がっていました。

（啓光学園主査　高橋久美子）

啓光学園成人

令和七年十二月二五日にクリスマス会を開催しました。

昼食は特別メニューで、食後にクリスマスケーキを食べました。その後、啓光ホールで西村講師とゆかいな仲間たちによるスペシャルコンサートを開催しました。コンサートは感染予防のため、なかまの樹、学園三階の女性利用者、学園二階の男性利用者の方の順番で、三部構成にて開催し、ホールのクリスマスツリーに利用者の皆さんで飾付けを行ってから、コンサートを鑑賞しました。

コンサートが始まると、普段の音楽活動でも人気がある「ダンスホール」、「RPG」、クリスマスにちなんだ曲のほか、学園の利用者が書いた歌詞へ、演者の皆さんにメロディをつけてもらい、できあがった曲「ぱくぱくくもぱん」を演奏していただきました。素敵な曲が出来上がり、楽しいコンサートになりました。

（啓光学園主事　丘野雄史）





啓光学園日中活動

生活介護の活動では、曜日ごとにプログラムを設定し、楽しみな気持ちと達成感、健康を第一に支援しています。

火曜日と水曜日は、従来の作業活動を継続し、さくら作業所では、長年お付き合いのある工場様よりソファーに使用するウレタン部材の切り出しを受注しています。職員が手添えやサポートをしながら取り組み、工賃支給に結びつけています。

また、農園活動では季節に合わせた作付けを提案し、土づくりの管理から利用者さんと共に行っています。特に収穫の時期には、大きな喜びと達成感が強く、収穫された野菜は施設に設置している無人販売ワゴンで完売が続くほどの盛況です



また、室内活動を好まれている方は、絵画で自由に表現をしたり、施設内で出た書類ゴミをシュレッダーにかけたりする作業を行っています。

他にも、散歩やカラオケ、温泉風呂、音楽療法や体操活動など、曜日ごとにテーマを掲げながら、毎日を豊かに過ごせるような活動を心がけています。

（啓光学園主事　八重樫鈴奈）

なかまの樹

令和八年一月十日（土）、毎年恒例となった、なかまの樹「新年会」と今年度成人を迎えた利用者さんの為の「成人を祝う会」を開催しました。

「新年会」では、普段利用者さんが食べている昼食の形態や食事の様子をご家族に観ていただくと共に、いっしょに昼食を食べていただく、会食形式の会を行いました。

途中、バンド演奏とヒーローショーという職員による余興も行い、ご家族、利用者さんともにとても楽しんでいただけました。

会の後半には、新成人となられた岡田未来さんをお祝いする為に「成人を祝う会」を開催しました。

事前にご家族からお借りした小さい頃の写真から、なかまの樹での活動までの写真をスライドショーにして皆さんで鑑賞し、花束を贈呈しました。

ご家族から、未来さんの小さい頃の様子や、今後の抱負などもお聞かせいただきました。会全体を通して、とても明るく、温かいなかまの樹らしい会となりました。

（なかまの樹主任　杉本憲太）



啓光ホーム

令和七年十二月の第一週、第二週の週末に、利用者の方四十四名が、二班に分かれて大型バスを貸し切り、伊豆稲取温泉に宿泊旅行に行ってきました。

一日目は伊豆シャボテン公園で昼食を取り、多様な動植物とふれあいながら散策しました。

旅館には車椅子のまま入浴できる温泉も完備されていて、普段とは違うお風呂に入り、豪華な夕飯の後はカラオケ大会で盛り上がりました。

生活するホームが違う利用者さん同士で昭和歌謡のデュエットもあり、とても良い交流となりました。

今回の旅行は、福祉関係を得意としている旅行会社にお任せしたことで、バスの運転手さんをはじめ、行く先々全ての方々に恵まれ、安心して旅行を楽しむことができました。来年度の宿泊はどこにしよう?という声もあちこちで聞かれています。

普段の業務では決してできない「利用者さんと布団を並べて寝る」ことを通してほんの少しですが、旅行を通じて利用者さんと職員の距離が縮まったような気がしました

（啓光ホーム係長　横川まや）







啓光えがお

啓光えがおでは月に一回、土曜日の午前中を「えがおday」として開所しています。

三月の「えがおday」では利用者さんたちによる活動発表会を行い、太鼓クラブ、朗読コンサート、けいおん（軽音）部のみなさんが日頃の成果を披露しました。太鼓クラブの皆さんは、スクリーンに映し出された「太鼓の達人」の曲に合わせて力強く太鼓を叩き、朗読コンサートの皆さんは、読み手とめくり手を分担し、協力し合いながら「ぐりとぐら」などを朗読、けいおん部の皆さんは、ギターとウクレレの演奏に合わせて「はとぽっぽ」をさまざまなテンポで歌い、拍手と歌声でにぎやかに締めくくりました。

発表前は緊張した表情を見せていた利用者さんたちも、ステージに立つと普段どおり楽しそうに発表していました。

この発表会につながったのが毎週水曜日の午後に行っているグループ活動で、利用者さん一人ひとりの「やってみたい」を見つけ、叶えようという取組から始まりました。

今回の発表会は、利用者さんにとって日頃の活動を多くの方に見ていただく機会でもあり、自信や達成感につながればという思いで企画しました。発表会での成功が自信に繋がり、4月の入所式のウエルカムイベントでも披露し、新しい仲間をみんなで温かく迎えることができました。

これからも「好き」や「やってみたい」という気持ちに応えながら、挑戦する場をつくっていきたいと思います。



（啓光えがお係長　菅藤　将）

利用者さんの声

令和七年度から、なかまの樹に通所された庵蒼葉さんとご家族に、この一年間の感想についてインタビューを行いました。

Q　なかまの樹での社会人一年目はいかがでしたか？

A　先輩方とスタッフの皆様が暖かく見守ってくださり、安心して通うことができました。

Q　はじめてのお給料はつかいましたか？

A　まだ使っていません。

いつか、富士レークホテルに宿泊し、豪華なペースト食を食べたいです。

Q　学生の時と社会人になって違いはありますか？

A　初めてのお給料をいただき社会で働いていることを実感しました。



Q　なかまの樹で今後挑戦したいことはありますか？

A　今できていることと、相談して新しいことにも挑戦したいと思います。

（聞取り

なかまの樹主任　杉本憲太）

【御連絡】

長きに渡り啓光福祉会の運営や理事会に携わっていただいた福田一仁様が、令和八年一月五日に御逝去されました。

昨年八月に御退職し、その後も、啓光福祉会の行事の際には必ず御出席され、アドバイス等もいただいておりましたが、以前より治療を続けてきた御病気により、十二月頃から体調を崩され、お亡くなりになりました。

墓前は、啓光学園の近くの大乗寺にあり、今も啓光福祉会を見守り続けていただいております。謹んでお悔やみ申し上げます。

大乗寺　永代供養墓
多摩市和田一五一五

【編集後記】

七月に入り、急に暑さが増してきました。三月から六月にかけては、今年度の事業計画や昨年度の事業報告、予算や決算報告といった理事会や評議員会の定時案件があり、いつの間にか過ぎていった気がいたします。

啓光福祉会の各事業所に入所や通所されている利用者の方々の安全安心、豊かな日常生活を法人運営からも御支えできるよう、精進してまいります。

今後とも当法人の活動に御理解御協力を御願いいたします。

（統括施設長　鈴木友幸）

【ご支援ありがとうございました】

皆様からご支援をいただきました。

厚く御礼申し上げます。

元啓光学園利用者御家族　村山文彦様
100,000円

故啓光ホーム利用者御家族　杉村ふゞき様
3,000,000円

j－union株式会社　様
101,950円

（順不同）